

医療機関専用スマートフォン「メドコム」を提供する株式会社メドコムが、 秋田大学大学院医学系研究科へスマホ導入による効果検証に関する研究を委託

株式会社メドコム（本社：東京都江東区、代表取締役社長 兼 CEO：佐藤康行、以下メドコム）は、秋田大学大学院医学系研究科へ「医療機関用スマートフォン導入による病棟看護師の業務負担軽減効果の評価に関する前後比較研究」を委託しました。



■ 委託研究の概要

医療機関用スマートフォン導入による病棟看護師の業務負担軽減効果の評価に関する前後比較研究

■ 概要

(1) 研究期間

実施許可日～2028 年 3 月 31 日

(2) 主な研究内容

医療機関用スマートフォンの導入および DX 化によって以下の負担が軽減されているのか定量的・定性的に評価する。

- 時間的・心理的負担が軽減されている（＝業務が効率化され、時間的余裕ができているか）
- ICT および DX の活用を通じて、病棟業務の設計や人員配置の最適化を再考する契機となる

■ 本取り組みの背景と目的

近年、看護師をはじめとする医療従事者において、過重な業務負担や頻繁なコミュニケーション負荷が報告されており、これらが心理的ストレスや職務満足度の低下につながることで指摘されています。特に病棟における従来の連絡手段である PHS や固定電話は、業務中断の頻発、情報の断片化、伝達ミス招きやすく、看護師の時間的効率や心理的負担に大きな影響を及ぼしています。一方、医師の働き方改革や医療 DX の取り組みの一環として、ICT 機器の活用が進められ、スマートフォンの導入およびそれに伴うチャット機能などが業務効率や職員満足度の向上に寄与する可能性が注目されています。しかしながら、従来の取り組みの多くは個別の事例報告など定性的評価に留まっており、実際に業務に与える定量的効果や、業務負担・ストレスの軽減にどう寄与するかを明らかにしたエビデンスは限られています。また、令和 8 年度診療報酬改定においても ICT 利活用における看護師の業務効率化が重要視されており、看護師の

配置基準の柔軟化の条件として定性的/定量的評価の定点観測およびその報告が求められております。

本研究では、看護師を中心に看護補助者、クラーク等を含むスタッフに医療機関用スマートフォンを利用いただき、固定電話および PHS を用いた従来の業務環境と比較し、スマートフォン導入によりコミュニケーションに要する時間を含む看護師の業務負担が軽減されるかを検証することを目的としています。

■医療機関専用スマートフォン「メドコム」について

メドコムは、「医療の ICT プラットフォームを創り、医療をデジタル化する」をビジョンに掲げ、全国各地の医療機関に対してセキュアな環境下で医療機関の DX を実現するスマートフォンサービス「メドコム」を提供するとともに、医療現場の働き方改革を推進するアプリケーションの開発・提供を行っています。「メドコム」は、ナースコールや電子カルテ連携、グループチャット、緊急通報機能、端末の遠隔管理など、医療現場に必要な機能を標準搭載するとともに、専用回線で直接接続する閉域ネットワーク上での動作により高いセキュリティレベルで安心・安全に利用できる環境を実現しています。PHS に代わるデジタル化推進ツールとして病院の DX を支援しています。

■株式会社メドコム

社名 : 株式会社メドコム

所在地 : 東京都江東区豊洲 3 丁目 2 番 24 号 豊洲フォレシア 9 階

代表者 : 代表取締役社長 兼 CEO 佐藤 康行

設立 : 2016 年 7 月

事業内容 : 医療機関専用スマートフォン「メドコム」の企画・開発・販売・保守

URL : <https://www.medcom.ne.jp/>

以上

【本件に関する報道関係者からの問い合わせ先】

株式会社メドコム 広報担当 大野

TEL : 03-6268-9071

MAIL : press@medcom.ne.jp